

平成28年度第2回小鹿野町総合教育会議会議録

開催日時 平成28年12月26日(月) 午前10時00分
開催場所 両神ふるさと総合会館 1階 研修室A
開会時刻 午前9時58分
閉会時刻 午前11時30分

出欠席状況

町長	福島弘文	出席
教育長	中紀雄	出席
教育委員	齊藤榮一	出席
	高橋美正	出席
	朝比奈玲子	出席
	小池恭一	出席

その他会議に出席した者

学校教育課長	高橋俊行
学校教育課主幹	黒田佳之
総務課主幹	新井昇

傍聴者 なし

会議録署名 中紀雄

日程

日程第1 会議録署名委員の指名

日程第2 議事

- (1) 平成28年度教育施策重点項目進捗状況について
- (2) 平成29年度教育委員会予算の概要について
- (3) 生徒指導状況(2学期)について
- (4) 未来塾の現況と課題について
- (5) 出生数から見る学校教育の将来展望について
- (6) その他

閉会

会議の進行状況及び顛末

開会 午前9時58分

町長 あいさつ後、全員の出席を確認し、平成28年度第2回小鹿野町総合教育会議の開会を宣言する。

日程第1 会議録署名委員の指名

町長 会議録署名委員については、中紀雄教育長を指名いたします。

日程第2 議事

町長

次に日程第2、議事に移ります。始めに（1）平成28年度教育施策重点項目進捗状況について、（2）平成29年度教育委員会予算の概要について、関連がございますので一括上程し議題としたいと思っております。

事務局より説明をお願いします。

「はいの声あり」

黒田主幹

それでは、（1）の平成28年度教育施策重点項目進捗状況について、（2）の平成29年度教育委員会予算の概要について、続けて簡単ではありますが説明させていただきます。

資料ですが（1）については、A3判の資料になります。28年4月から12月までの間で、小鹿野町いきいきプランということで小鹿野町の教育行政重点施策についての進捗状況ということで、事後評価で作成させていただきました。中身につきましては、2枚目以降に細かく書いてあります。こちらについては、後ほどご覧いただきたいと思っておりますので、1枚目を簡単に説明させていただきます。

1番の確かな学力の育成ということですが、先ほどの町長のあいさつの中でもありましたが、（4）の小鹿野未来塾を今年度から開催しまして、英検・漢検、そして土曜日の中学生未来塾、並びに小鹿野高校に協力していただき実施しました科学不思議講座ということで、今年度開催したところであります。出席率等が新たな課題となって伸び悩んでいることもあり、事後評価につきましては全てBにさせていただいております。

次に2番の自立した周囲と協調できる社会性の育成のところでは、（1）の自治・自立に向けた態度の育成では、新たな伝統行事づくりということで、小鹿野中学校に4校が統合し、この4月からスタートしたわけですが、それまで行っておりました「そうらん節」というのを新たな「新生・鹿中そうらん節」ということで、体育祭等で披露したところであります。それと総合学習につきましては、各校で行っておりました歌舞伎を引き続き小鹿野中学校でも取り組み、郷土芸能祭において上演したところであります。また、両神山小学校におきましては、両神山登山を行ったことで、評価については、Aにさせていただきました。

次に3番目のグローバルな視点を持ち夢の実現に向かう活力の育成では、（1）の夢と志をもち自立する力の育成ということで、小鹿野ふるさと学習ということで、小学校においては、宮沢賢治の学習会を行い、また、中学校では、ようばけなどの地質の学習を総合的な学習の中で行うなど、ふるさとの学習に力を入れて取り組んできたところでありまして、評価はAにさせていただきました。

4番の豊かな人間性と健やかな体の育成では、（3）の健康教育の推進ということで、給食センターが10月7日にオープンさせていただきました。2学期が先週、無事に終わったところであります。こちらも評価的にはAにさせていただきましたが、まだ、スタートしたことで、色々と忙しくて児童・生徒に対する食育という部分で更なる充実が必要かと考えています。

最後に、5番目の伝統文化の継承と生涯にわたる学びの支援ということですが、(1)のライフステージに合わせた学習機会の提供と支援で、子育て・家庭教育の支援ということで、体操のお兄さんと呼びまして、親子ふれあい体操を小鹿野小学校体育館で実施するとともに、ベネッセコーポレーションから講師を招きまして親子一緒に講演で家庭教育講演会も実施することができ、評価はAにさせていただきました。次に(5)番の図書館機能の充実と読書活動の推進ということで、一番下に調べる学習コンクールを今年度初めて開催しましたところ、児童・生徒・保護者の方から総数29点の応募がありまして、先日の23日に表彰式を行ったところであり、評価はAにさせていただきました。

28年度12月までの取り組みにつきましては、以上になります。

次に、(2)の平成29年度教育委員会予算の概要につきましまして説明させていただきます。次第の次のA4版縦の資料をご覧くださいと思います。来年度予算につきましては、先週の19日に締め切りということで、総合政策課へ提出してありますが、まだ、町長が内容的なものについて見ていないということもありますので、数字については削除させていただきます、項目の説明ということでお願いしたいと思います。

初めに、確かな学力の育成事業ということで、今年度から開始しました小鹿野未来塾を来年も内容等を更に検討し、充実させたものとして実施していきたいと考えております。それと、小学校につきましては、夏休みにプールがあるので、今年も少しずつやっておりますが、小学生サマースクールということで、プールと学習時間を組み合わせまして、そこに学習指導員さんの方に入ってください、夏休みの補習授業という形で実施を考えております。次に、義務教育支援事業ということで、平成27年度から全児童生徒対象ということで、給食費と教材費の一部を助成しており、来年度も引き続き実施していきたいと考えております。次に、タブレット型端末・電子黒板機能付プロジェクターの導入ということで、総合政策課と調整しまして平成29年度、基本的には教師分と両神小を推進モデル校として、学級の児童数ということで約25台になると思いますが導入し、授業改善を図っていきたいと考えております。

次に、給食センター運営事業につきましては、今年度10月に稼働しましたが、来年度も引き続き同じ体制で運営してまいります。これに関しては、追加資料の次に子供の書いたお礼文と新聞のコピーは、先ほどの義務教育支援に関わる内容ですが、給食費無償化ということで後ほどご覧いただきたいと思います。

次に、校舎等施設整備ということで、大きな事業は今年度でだいたい終了しましたが、来年度は、この中でも旧小鹿野共同調理場の解体ということで、小鹿野中学校の校舎にある共同調理場なのですが、これも、この解体工事を要望してあります。時期的には、夏休みに実施ということで考えております。

次に、社会教育課ですが、スポーツ振興事業ということで、総合運動公園の人工芝張替が2面、それとボルタリング施設ということで、いわゆる人工の壁登りの施設を旧両神中学校の体育館内に設置し、郷土の自然の再認識や体力向上、何事にも負けない強い心を育むためと

ということで整備したいと考えております。中央公民館では、文化センターのホール舞台の吊物の改修を計画的に実施することで考えております。図書館につきましては、調べる学習コンクールを今年度で第1回を開催しましたが、来年度も引き続き実施し、図書館を利用した親子共学を推進していきたいと考えております。最後に、小鹿野ときめき生活推進大学講座ということで、教育委員会内の各課所共催ということで今年度から事業を開始したところでありますが、各世代のライフステージに合わせた学習プログラムを提供し、生涯学習を推進してまいりたいと考えております。

以上、簡単なのですが説明とさせていただきます。

町長 　　ただ今、（１）平成２８年度教育施策重点項目進捗状況について、（２）平成２９年度教育委員会予算の概要について説明がございました。最初に、（１）平成２８年度教育施策重点項目進捗状況についてご質問等ありましたら発言をお願いします。

小池さん。

小池委員 　　質問というよりか感想になってしまうのですが、平成２８年度、一番大きいものは、やはり、小鹿野中学校統合かなというふうに思います。そして、町長さんもお覧になったと思いますけれども、体育祭。私も何年も小鹿野中学校の体育祭を見ていると思いますけれども、やはり、各学校の良さが取り入れられた体育祭であったなと思います。今まで選手紹介というのは、小鹿野中学校はありませんでした。他の学校は、間を持たせるために選手紹介をしたというのはありました。ただ、小鹿野中学校が統合した中で、そういったことも新たなものでありましたし、今までのそうら節、また、競技等々も違って見えました。

生徒が言っていましたけれども、新たな歴史の１ページを創るのだという思いで、生徒に聞いたところ生徒たちもだいぶ意見を出し合って決めたようです。だからこそ見ている者も感動する体育祭になったのだと感じました。非常に統合して心配をしていましたけれども、いい形で進んでいるのかなと。ただ、課題も多くあるでしょうから、これは教育委員会と学校で連携しながら見守っていかれたらと思います。

それともう一点、給食センターですが、これも親の立場からしてみますと、まず、安全・安心というのが第一だと思います。やはり衛生的なことを考えますと、今までの調理場ではちょっと不安があるというところで、新たな給食センターを１０月から開始していただきました。当初、うちの娘も食べたところ、やはり今までと味付けが違うというところがあって、なかなか「美味しい」の一言が出ませんでした。最近は、色々と美味しいと、特にカレーなんかは、ちょっと辛いという意見もあるようですが、うちの娘は、非常に美味しいと言っています。他のお母さん方に聞いても「やはり変わったのだから、最初は味が違うと、それも慣れでしょうね」ということで理解しているみたいです。

それと未来塾については、この後にあるかと思いますが、やはり、継続的に子供たちへ学習する機会を与えるということは、非常にいいことだと思いますので、また、講師の先生を見つけたりするという大変な部分もあると思いますが、前年の課題を克服して次

年度にも継続して実施できればいいというふうに思っております。

また、各学校で今回、小鹿野町PTA連合会にも協力していただいて、家庭教育宣言をしてもらいました。その中で、各学校の学力も確実に、若干ではあるけれども伸びているというところです。やはり、学校だけではできない、家庭を巻き込んで、地域を巻き込んで子供たちを育てていくということが大事だというふうに、この進捗状況をみて感じています。

また、29年度予算に関しましては、今回の反省等踏まえて予算を計上しているものだと思いますので、ぜひ、継続的、かつ改善をし、未来の子供たちのためにできたらいいなと思っています。以上です。

町長 ありがとうございます。この意見に対しコメントがありましたら教育長お願いします。

教育長 今、小池委員さんが述べられた点については、通常のエド育委員会等でもお話しさせていただいているのですが、特に、学力向上に向けての未来塾というのは、まだまだ課題はありますけれども、最下位の学力を一步ずつですが伸びつつありますので、やはり継続的な指導が必要であると思います。私は英検の4割というのが、グローバルな視点で、これも未来塾の中でどうしても英検は4割なのですが、まだ2割がやっとというのが現状でありますので、学力向上には長期的な点で見なければならぬのかなと思います。先ほど、小池委員さんも述べられたように、家庭教育というのが大きな柱になっていきますので、この重点施策の5番の社会教育課で「子育て・家庭教育の支援」という、5番の(1)に「ライフステージに合わせた学習機会の提供と支援」というので、あくまでも学校教育だから学校教育課でやらなければならないという視点ではなく、子育て・家庭教育の支援という社会教育課・公民館が中心になって、家庭教育の支援という事業を立ち上げていただいたということで、学校と社会教育が連携した家庭教育の充実を図っていきたくというところであります。

教育委員会の一つの課題とすると、課で仕事をするというよりも共有して課を超えてお互いに仕事をし合うという方向性で、今年行ってきたという状態であります。ですから、課を超えた仕事というのは意外と多く出てきているかなと、挙げればきりがありませんが、いずれにしても家庭教育というのは、こういった方向で動いています。

あと、話にありました「体育祭が良かった」と小池委員さんが言われたように、統合して子供同士が予想外に集団の活動というものを大きく自分たちで自立した考え方で、4中学校の特色を活かした、歌舞伎にしても森林学習にしても本当に良く取り組んでいただけたかなという点では、評価がAに匹敵してもいいのかなと思っています。しかし、課題もあるということです。

説明になりませんが以上です。

町長 他にはいかがでしょうか。

先ほど、給食の件が出ましたけれども、議会の中でも2・3人の方から質問がでました。「美味しいだとかどうだとか」という内容ですが、4つの調理場が一緒になったので、同じ味は出ないと思います。

例えば、Aの調理場にいた人は、その味を憶えているわけですから。ですから、なるべく早く美味しい給食にしてもらいたいと思います。先ほど、美味しいというお話もありましたけれども、私も父兄の方から聞きましたので、ぜひお願いしたいと思います。

他には、どうでしょうか。（2）の平成29年度教育委員会予算についても一緒にいいですからいかがでしょうか。

「はいの声あり」

町 長 齋藤委員長さんお願いします。

齋藤委員長 まず、今年は教育委員会で色々と活動が出来たり、施設が出来たりと、町長さんにも予算を付けていただいたり協力していただきましてありがとうございました。

今の活動と予算について事務局より話をしたのですが、教育委員会としても継続して色々とやっていきたいと思いますので、2点ほど予算の関係でお願いをしたいと思います。

一つは、今、説明した中で確かな学力の育成事業という中で、タブレット型端末・電子黒板機能付プロジェクターの導入とか、ICTの教育を推進しますということです。ぜひ、予算を付けていただいて活動できるようにしていただきたいと思います。理由としますと、まず、指導要領が変わってそういう教育が必要になってくるということ、小鹿野町の学力を伸ばすために必要になってきます。それと授業改善等も色々と出来ますし、あるいは、楽しめる授業や色彩とか図面とかを使った立体的な授業もできてきますので、ぜひ、導入していただきたいと思います。それと高校に行きますと、現在3割の高校で使っていて、3年の間にほぼ普及するということです。小鹿野町の生徒が高校に進学してもすぐ使えるような形をとって、教育委員会としても推進したいと思いますので、ぜひお願いします。

それから、もう一点は、先日23日に「調べる学習コンクール」の表彰式を行い、町長賞とか教育長賞とか表彰しまして、小さい子供たちが調べる学習を図書館でやっていただきまして、今年初めてでしたので、これからも継続してやっていただき、小さいうちから学力を付けて小鹿野町の子供たちが、他所に引けを取らないような形で活躍できるということを期待していますので、こちらのほうもぜひ図書館事業に支援いただきたいと思います。以上です。

町 長 この意見に対して教育長は何かありますか。

教育長 お話にありましたタブレット型端末について、黒田主幹より説明させます。

黒田主幹 物自体は皆さんお解りだと思いますが、今あるスマートフォンよりちょっと大きいもので、パソコンの画面よりは少し小さいものがタブレットといわれていて、それと各教室にプロジェクターを置いて、大きいスクリーンに映し出しまして、手元にある画面と黒板に映る画面が同じもので、先生の触ったところと同じに黒板で操作ができるもの

です。最近言われているのが、動画を観たり理科の実験などの実際には出来ないものを画面に映し出して、体験できるということが一番のメリットだと思われま

す。両神小学校を来年度モデル校として、各学年1クラスですが一番児童数が多い学年が25人ということなので、両神小学校に関しては、児童用に25台、プラス担任の教師、プラス予備ということで両神小学校につきましては40台程度導入したいと考えております。その他の小学校に関しましては、基本的には担任の先生、中学校につきましては、担任の先生と教科ごとに先生が違いますので教科ごとに1台ずつということで考えています。小鹿野小中全体で約100台程度タブレットといわれるものを導入する計画で、予算を総合政策課と調整しているところです。また、それを映し出す電子黒板機能付きプロジェクターというものがあるのですが、これは持ち運びが可能なものなので、各階に1台というふうに、3階建てですと3台というふうに考えてお

りまして、小鹿野町全体ですと13~14台になるかと思えますけれども導入したいと。また、タブレットとプロジェクターを無線のLANで繋ぐ装置をプロジェクターの台数分考えています。今朝の新聞に出ていたのですけれども、総務省のほうで無線LANの整備に関して、29年度大幅に補助金の予算を確保するという記事が出ておりましたので、こちら

教育長

も、もし使えればというふうに考えております。以上です。

新たなタブレットというのは、今のICTの改革と言われてお

まして、これはあくまでも授業をより良く効果を上げたいというのが大きな狙いでありま

す。あくまでもというのは、教師は黒板と生徒と対面した授業しかやってない現状の中

で、残念ながらテレビにやっ

と映し出すのが精一杯なのですが、このタブレットを導入すると子供の声から教師が特徴の

ペンを使って何でも出来るし、映像を動かすことも出来る。子供にとっては、今、

スマートフォンに慣れている子供の時代なので、どちらかという

と、教師の学びが遅いと、教師を来年度一年かけて、何とか研修等で力を付けて

小鹿野町の教育の改善を図れたらということで、教育委員会でも話し合った結果とい

うことなのですが、努力をしてみたいと。これは、学力の向上にも繋がるということ

で、これからの時代はタブレットが鞆の中に入って家庭教育にも使われるだろうとい

う時代が、これから5~6年経つと来るだろうと言われるほど普及が大きくな

ってしま

して、県内でも現在52%ほどの普及率が出ているようなので、郡内では秩父が太田小中

学校で導入して実践の研究をしているということで進められているようでありま

す。近隣ではそういった状況です。

町長

今の件でも他の件でも構いません。質問・意見等ございましたらお願いします。

「はいの声あり」

町長

高橋委員さんお願いします。

高橋委員 確かな学力の育成事業の中の義務教育支援事業の中で、給食費と教材費の一部が無償になっているということで、朝日新聞の新聞記事を配布していただきましたが、私も住民として認識不足だったのですけれども、こういうことを小鹿野町が県内の市町村に先立って先進的な取り組みを行っているのだということを改めて確認をさせていただきました。子供たち或いは保護者にとっても本当に恵まれている環境だと思います。特に、保護者の教育費の軽減に繋がるということで、ぜひ財政的に厳しい面もあると思いますが、将来を担う子供たちのための育成事業ですので、今後も継続してほしいと感じました。よろしくをお願いします。

それともう一点ですけれども、社会教育の体育施設整備事業の中で3点あります。どれも大事な事だと思うのですが、その中でもボルタリング施設整備を旧両神中へ整備したいという考えがあるようですので、これについてお願いがあります。子供たちの体力面・筋力面づくり、あるいはバランス感覚、辛抱強い心だとかを育てるのに非常に良い施設だと思っております。また、幼稚園だとか保育所等、小学校を含めてですけれども総合的な学習の時間にも使えるでしょうし、末は生涯学習ということにも繋がっていくのかなと思います。また、空き施設の活用面でも有効な活用になるのかなと思っております。それから将来的には、私は河原沢に住んでおりますので、二子山だとか両神山があります。この二子山は、皆さんご存知のとおりロッククライミングのメッカであります。両神山は尾の内側からはあまり登らないのですが、両神の方からは、多くの登山客があります。ということは、将来的に観光にも繋がる、或いは観光客の増加ということにも繋がってくるのかなと思いますし、何はともあれオリンピックの種目になっていますので、先進的な事例ということで非常に注目されるのではないかと思います。住民の一人として、ぜひ推進してほしいと思っております。

町長 この意見に対して教育長なにありますか。

教育長 ボルタリングについては、先日、加須市へ見学に行っていました。この件については、事務局長が詳しいので、報告等を含めて説明をさせます。

高橋課長 先ほど教育長がお話したように、ボルタリングの視察で加須市に行っていました。

加須はボルタリングよりもリードといって、ロープを付けて途中のカナビラに引っ掛けて登っていくというもので、そこは14mの高さがありワールドカップも出来るくらいの規模なので、ちょっとスケールが違うかなと思います。ボルタリングを整備するにあたっては、体育館の中でできるもの、高さ的には高いところで5mくらいです。突起物がいっぱい付いていて、そこに手とか足を掛けながら登っていきます。昔、子供たちが石垣を登ったとか、そんな感じが発展したものというふうに考えていただければと思います。

このボルタリングは、小さい子供から大人まで楽しめるということで、小さい幼稚園児などは安全用に大人が落ちないようにということ

で、ロープを付けて確保しながらというやり方も出来ます。大きくなれば、下にエアークッションがありますので変な落ち方をしない限りケガはしないだろうと思います。手足を使って登りますので、バランス感覚だとか、中々、今、自然の中で遊ぶという機会が減っていますので、自分の体を守るという部分でも有効、体験できるのかなと思います。そういった面で、幼児教育や学校教育においても非常に有効だと思います。

施設的には、高さが5 m位で、幅は普通に登るには4～5 mあれば一つのルートが取れるかなと、ある程度の人数が登るにはそれなりの幅が必要になると思っております。

近隣ですと、今は使えなくなっているようではございますけれども、吉田の元気村の所にも3 mか4 m位のボルタリングの壁が以前はあったようです。あとは消防署等では、普段の訓練ということでリードになると思っております。秩父郡内では、こういった施設はないわけではございますけれども、小鹿野町は二子山があり全国的に有名な山です。そういった方たちがお見えになったりしていますので、観光面にも繋がっていく部分なのかなと思っております。

費用的にもボルタリングの壁だけであれば、リードの壁を作るよりは安くできると思っております。全体的には1千万円近くのコストが掛かってしまうと思っております。

教育長 事務局長が説明したとおりであります。加須に行って、加須が悔しがったのが一つあるのですが、小鹿野町には自然があると。この自然が加須にはないと。いくら加須で頑張っても限界があり小鹿野町にはあると。それと、児童館がありますが、加須もそういうところに目を付けているのですが、実際は自然がないので小鹿野町は羨ましいなという話が出ました。

あくまでも、私たち教育上の課題としては、幼児の幼稚園児から大人までということ、ある程度用具もそれほど用意しないで取り掛かかることができるということで、たまたま小学校の子供が参加した作文をいただいたのですが、「すごく負けず嫌いで頑張ったとか、悔しさがあつたとか」、子供にとっては相当に大きなプラス思考になるのかなと思っております。イコール後々の小鹿野町のふるさと思考に繋がっていったらいいなと、自然がある小鹿野町にとってはと思ひまして教育的な視点で、教育委員会でこのボルタリングはどうでしょうかと相談し決定したところであります。

町長 他にはいかがですか。

「はいの声あり」

町長 朝比奈委員さんお願いします。

朝比奈委員 皆さんから色々なご意見をいただきましたが、確かな学力の育成事業の中の小鹿野未来塾の開催については、保護者の皆さんの話を聞く中で、やはり回数が少ないという意見があります。たくさんの方にご協力いただきながらの授業ですので、確かに大変でしょうけれども、

ぜひ回数を少しずつ増やしていただいて、今、少しだけ成果が見えているのですけれども、もっともっとたくさん成果を出していただきたいと思います。また、これについての予算もぜひお願いします。

また、先ほど色々な意見が出ましたボルタリング施設整備事業に関しては、子供たちの健康・育成ということに関して、素晴らしい施設だと思いますので、ぜひお願いします。中にはオリンピックの種目になったから、こういう施設を造るのだと思われる方もいらっしゃるかと思いますけれども、それだけではなくて、子供から大人までがその施設を利用して、健康育成に大きく役立つと思いますので、ぜひ予算の確保をお願いします。

町 長

ありがとうございました。

未来塾について、回数が少ないという意見も確かにあると思いますけれども、教えていただく先生は月2回ですか。本当はもう少しというのがあるのですけれども、他の人が教えてくれるならいいけど、先生にあまり負担になってもいけないと思います。お金がかかるというのではなく、先生をいかに見つけられるかだと思います。ボランティアでやっていただいているのだと思いますのが、ぜひ期待に応えられるようにお願いしたいと思います。

ボルタリングについては、色々な意見があるようですが、高橋委員さんからも空き施設の利用ということでお話がありましたが、空き施設については、どこをどういう方向で使っていくかということを決めていかないといけないと思います。観光面とドッキングすることになるとどこの旧中学校がいいかということもあります。方向性を教育委員会としても早く出していただいて、実現できればいいなと思います。

たとえば、全部か全部を使うというのは、できないかもしれませんが、教室を幾つか使うというのがあったり、体育館を使うとかいろいろあると思うので、教育委員会としても話し合いを持ってもらっているようですので、ぜひお願いしたいと思います。

他にはいかがでしょうか。

特にないようですので、(1) (2)については、以上とさせていただきます。

続きまして、(3)生徒指導状況(2学期)についてを議題としたいと思います。

事務局より説明をお願いします。

「はいの声あり」

黒田主幹

それでは、(3)生徒指導状況(2学期)についてを説明させていただきます。資料はA4版縦の左上に部外秘と書いてあるものになります。

生徒指導状況2学期ということで、こちらの方は、宮原相談員さんにまとめていただいた資料になりますが、まずいじめに関しては17件。小学校8件、中学校9件。10日以上欠席の不登校が1件、これは小鹿野中学校ということになっております。いじめに関しては、小中併せて17件ということで、ちょっと多いような感じもしますが、

いじめの定義が資料下の（１）の中に書いてありますが、相手がいじめだと思えばいじめというように定義されているということで、以前とは変わってきていると思うのですけれども、件数的には１７件で、これが原因で大きな問題に発展したという事例は、今のところありません。

それと不登校につきましては、小鹿野中学校で１件ということで、こちらも下の（２）に書いてありますが、不登校は１件で、こちらの生徒に関しましては２学期後半から適応指導教室ということで、校舎３階で進級を行いまして２学期も無事に終了し、３学期から私立の中学校に転校するということが決まっております。（３）については以上です。

町長 　ただ今、（３）生徒指導の状況について説明がございました。いじめに関しては１７件ということですが、一番下にいじめの定義が変わったということですから、ここに書いてあるとおり「いじめ」の認知件数が多いことは、目が行き届いていいのだという解釈なのですから、問題が大きくならなければいいということなのでしょうけれども、このように変わるのだと思ったところです。ただ、不登校の生徒が一人いるということでありあす。それでは、（３）について、ご質問等ありましたら発言をお願いします。

教育長 　新聞に報道されているような原発に関するいじめは、小鹿野町にはありません。

町長 　福島から転校してきている生徒は。

教育長 　おりません。

町長 　他にはいかがでしょうか。特にないようですので、（３）生徒指導状況（２学期）については以上とさせていただきます。続きまして、（４）未来塾の現況と課題についてを議題としたいと思います。事務局より説明をお願いします。

「はいの声あり」

黒田主幹 　それでは、引き続きましてA４縦の資料になります。小鹿野未来塾の現状と課題ということで説明させていただきます。

未来塾に関しては、先ほどの重点項目あるいは予算の所で話が出ておりましたので、ここでは簡単に説明させていただきますが、まず中学生未来塾につきましては、参加者は８５名ということで出席状況につきましては７０％程度で、第２・第４土曜日の午前中に行っております。中学生になりますと部活との兼ね合いもありまして、土日になりますと大会等がある日も多く、ちょっと出席率の方が悪いかなど感じられているところであり、この辺が課題ということであり、課題の

1に載せているところであります。それと課題の2としまして、生徒の学習意欲に二極化が見られるということで、すごくやる気のある子と仕方なく来ていると感じられる生徒がいるなどの二極化が見られるということです。

次に2番の漢検・英検チャレンジスクールにつきましては、漢検のほうに参加者140名、出席状況につきましては約65%になっております。課題としましては、講師の確保が一番の課題ということで、現在、一番遠い講師の方ですと、県南から一人来ていただいているという状況にありますので、なるべく近いところから講師の先生を見つけられるよう来年度以降考えております。次に英検の方ですが、こちらは参加者が101名、出席状況は55%程度です。課題としましては、講座実施日と学校行事、たとえば小学校で言いますと運動会とか重なってしまいまして、どうしても学校行事を優先しますので、この辺で出席状況が悪いということになります。漢検・英検どちらにおきましても検定料1回は町で補助するというので、来年度におきましても引き続き補助したいと考えております。

次に3番の科学不思議講座ということで、これは小鹿野高校の理科の先生にご協力いただきまして、理科的な実験と野外におけるフィールドワークということで行っていただいております。こちらに関しては参加者34名、定員をオーバーしているということでかなり人気がありまして、この中での課題としましては、理科の実験がメインとなりますので教材費に費用が掛かるということで、こちらの予算に関して、来年度以降余裕をもって実施できるよう考えております。

次に来年度以降に向けてということで、4番に書いてありますが、中学生未来塾に関しては、先ほど二極化という話をいたしました、習熟度別のクラス編成などを、今、現在始めたところですがこちらに対応していき、クラスにより授業の内容も変えていきたいと考えております。2番の英検・漢検につきましては、月2回が基本で、また、ない月もあり、どうしても集中力が途切れてしまうということもありまして、検定日を見据えまして集中的に講座を行うことで出席率を上げていきたいと考えております。科学不思議講座につきましては、先ほども話しましたように教材費について見直し、余裕を持って進めていきたいと考えております。

以上で説明とさせていただきます。

町長 　　ただ今、(4)未来塾の現況と課題について説明がございました。何か、ご質問・ご意見等ございましたら発言をお願いします。

教育長 　　先ほど、黒田主幹から説明がありましたけれども、やはり、未来塾について、どうしても中学生が補習学習を受けるにあたっては、習熟度別学級でないと無理がきたと感じます。ある程度、できる子と、できない子と言っては失礼なのですが、できない子には力を注ぎ、できる子にはできるなりの学習をしていかないと、子供が「行ってもつまらない」という声が出てきたものですから、それを二極化という言葉で9月以降修正をさせていただきました。そういう現状できているわけですが、今後、二極化が益々強くなっていく、それなりに子供が喜びを持ってもらえればと思っております。朝比奈委員さんが先ほど言われ

た回数の問題等が、中学校の場合は部活動との絡みがあって、普通の日にやればいいのでしょうかけれども、なかなか普通の日も子供の下校時間の問題もあるということで、土曜日の扱い、あとは夏休みを、29年は夏季休暇で出来ることならば、そこで増やしていきたいと担当の方では考えているようです。

いずれにしても数的な問題というのは、学校の行事と重なるということもありますので、この辺は早めに計画を作って対応していかなければならないと思っております。未来塾の場合に、その子供に応じた学習を、正直、一人一人に対応できればいいのですが、何とか二極化で努力していきたいというのが現状であります。

町長

ただ今、教育長から補足の説明がありました。

皆さんから何かご意見等ございましたらお願いします。

皆さんから特に意見もないようですので、(4)未来塾の現況と課題については以上とさせていただきますと思います。

続きまして、(5)出生数から見る学校教育の将来展望についてを議題としたいと思います。

事務局より説明をお願いします。

「はいの声あり」

黒田主幹

それでは、最後の議題となりましたがA4縦の資料をご覧くださいと思います。出生数から見る学校教育の将来展望について(小学校統合問題)案を作成していただきました。こちらに関しては、資料の1番を見ていただきますと、児童数の推移と複式学級の進行状況、これはあくまでも予想なのですが、学校毎の児童数とこのままいきますといつの時点で複式学級が始まるかということで、一覧表にさせていただきました。これは今年の4月1日の数値ということで、今後、もっと少なくなる可能性もありますが、このような予想になっております。これを受けまして2番のほうでは、小規模校のメリット・デメリットを一覧表に学習面、生活面、運営面、その他ということで、これは、文科省の資料からの抜粋なのですが、それぞれ良いところ、悪いところとあるわけですが、こちらのほうを載せさせていただきました。3番は、将来の小鹿野町の学校の将来像ということで、現時点で教育委員会として考えたことを載せさせていただきました。児童数の推移とこの辺に関して、今後、教育委員会だより等を通じまして町民の皆さんに情報提供を行っていきたくと考えております。

補足を教育長からお願いしたいと思いますが、よろしくをお願いします。

教育長

それでは説明させていただきますが、今回12月の議会で初めて、学校教育の将来展望についての質問等が、9月にも出たのですが直接的に出たのは、猪野議員さんが小学校の統合は「どういう考えであるのか」という質問がありました。そういうことから今後、町民の皆さんから不安な材料として挙がってくるのは予測される問題でありまして、今回、総合教育会議の資料として提示し、町長さんにもこういうことで教育委員会の課題として投げかけたわけでありまして。

「何しろ少子化の進行はなかなか止まらない現状でいきます」ということで、今、説明があったように三田川小から徐々に長若小や、そのうち鹿小も単学級になってしまったり、将来的に35年度までには、ほとんどの学校が複式かまたは単学級という状態になっていくだろうと。そうなりますと結論的に、親の方からすると「今から鹿小に行っていくか」という問い合わせがたぶん来るだろうと。それと鹿小へ行くということを前提にしながらも、長若小学校などの子供たちの様子だと、若い人が秩父へ住んで、「小学校が統合されてしまうのなら秩父へ住もう」とか、いろいろな保護者の住居、構えるところによって教育が大きく、町にも影響を与えるような現状が生まれてくるのかなど。そういうことで考えていくと、三田川小から話題が、たぶん今年の入学説明会から「複式はあるのですか」、「将来はどのようなのですか」、「それならば引っ越したい」、または「入学はしたくない」というような、そういう言葉を私に話しかける親がおりますので、しっかりと説明をしていかなければならないのかなど考えています。

資料のメリット・デメリットですが、これは、どう見てもデメリットに親が気付くことが、大きくなっていくのは避けられないと思います。デメリットをどう補うかが教育委員会で考えなくてはならない事であり、このデメリットが出てくることによって教育への不安とか、また、転校問題が起きてこないよう、これから教育委員会としては、大きな努力をする事項であると思っております。メリットは言いやすいのですけれども、メリットを維持するのにも、やはり、努力をしていかなければならないだろうと。

大滝の小学校の場合に、メリットの方を優先していくということで大滝小学校はあったのですが、やはりデメリットが最終的には大きな課題で、地域から統合という選択肢が出てきたというような現状であります。メリットをどう維持するかということが、これからの大きな課題であると思っております。

3番に将来の小鹿野町の学校というのがありますが、これは町長さんの考えもあるかと思っておりますけれども、中学校のような統合を一括という考え方か、または、合意形成のできた学校からということで、例えば一番大きく課題が出るのが三田川小学校で複式が早くなると、三田川地区から色々な推測の言葉が出てくるということになりますと、合意形成というのは、地域や保護者の動きによって、同意を得られるというか、そういうような意向が強いところから段階的にということが教育委員会としては望ましいのかなどという考え方で、ここに書いておきました。いずれにしても地域の、右側が学校の形成、教育委員会がどう捉えるかということですが、教育委員会の矢印の最後の所に、意向を踏まえた検討・調整ということで、やはり各学校で、PTAとか、または検討の意向に基づいた各合意形成を得ることによって、進めていくのがいいのかなど、あくまでも教育委員会の案でありますけれども、将来的のそういう地域から、地域の声を反映しながら意向を尊重して結び付けていくと。しかし、この小さい小学校にとすると、小鹿野小は単学級になってしまいますので、ただ小鹿野小へ統合すればいいやということになると、もう小鹿野小学校と小鹿野中学校の教育は、教育的に中学校も単学級になってしまいますので、将来の小鹿野町の魅力ある教育はどうあるべきかということ、小学校と中学校の合

同した一貫教育校を創らないと、もう小学校だけ、中学校だけの教育を唱えるのは、教育の質を下げる現状になるだろうと、そうなる小学校の統合というのは、小中学校の魅力ある学校づくりの構想を創って、大きな視点に立って、それも含めながら小学校の統合と中学校を巻き込んだ小中一貫教育校を創っていかないと、小中学校のただ統合だけでは、もう教育は限界がくるであろうと推測はできます。そういう意味で魅力ある学校づくりの構想を進めながら小学校の統合を考えていくべきでないかなということで、このような案を考えたのが現状であります。

町長

ありがとうございました。

ただ今、(5) 出生数から見る学校教育の将来展望について説明がございました。

表の平成34年の49という数字は今年度に生まれた子供の数ですか。

「そうですの声あり」

町長

今年度生まれた子が、平成34年に小学校に上がるということですね。今、説明がございましたように今年度は50人を切るような状況になっています。そういう中ですから、当然、将来どうあるべきなのかということ、私たちもそうですし、教育委員会サイドとしても検討していく必要があると思います。先ほどの説明で、例えば、三田川でも両神でも学校の区域を越えて他の学校に行ってもいいかということが出てくると思います。こういう時の対応等についても教育委員会で話し合っていたらどうか、ぜひお願いしたいと思います。

教育委員会で案を作ってくださいましたけれども、統合の一括というのは、なかなか今回は出来ないのかなという感じがします。ですからどうしても要望重視になるのかなと思いますから、そういう方向でいくのが良いと私個人としても思いますから、教育委員会サイドでもそういうことですから、これからも考えていってほしいと思います。また、小規模校のメリット・デメリットを父兄の方に色々と知らせさせていただくことが大切だと思います。複式学級といっても良いことがあるわけですから、そういう点等は父兄の方にも分かっていたら、それからどうなのかという点があってほしいなと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

何か将来の展望について、委員の皆さんからも、ご質問・ご意見等ございましたら発言をお願いします。

高橋委員

三田川に住んでいますので、三田川小が最初に複式学級になるということに危機感を感じているわけですが、私も以前教職に就いていました。今、町長さんが言われたとおり、小規模校に長く勤めていましたので、小規模校のメリットもわかっています。逆に言うとデメリットもあるわけですが、今回の場合は、三田川が最初になるのですけれども、これでいくと30年になるから、その時にすぐ統合というと、教育長が話されたように色々な課題もあるのかなと思いますので、今、町長さんがおっしゃったようにメリットの部分を強調して、

保護者の方に説明していきながら、また、一方では学校のほうでも地域のコミュニティスクールというので、地域の代表者等を入れて、地域を挙げて学校と連携して検討していくという組織になりますので、そういう組織の中で、メリットを保護者や子供たちに説明しながら、やはり中学校とはちょっと違うかなと。中学校の場合は部活等の面で早くというのが良かったのですが、地域全体を考えたときに、この学校がなくなると光が消えてしまうとかという話になるかと思しますので、できるだけ良さを活かしながら運営していければいいのかなと思います。ただ、その場合、保護者の意向というのが優先になると思いますので、保護者の意向がかなり強くなった時には、やはり段階的ということで、意向を踏まえたということが重要なのかなと思いますので、それを見極めながら教育委員会の提案に賛成ですし、小学校の場合はできるだけもたせたいというのが個人的な考えです。

町長 他にはご意見等ございませんか。

「はいの声あり」

町長 齋藤委員長さん。

齋藤委員長 私も高橋委員と同じように、本来、小学校はちょっと中学校と違いますので、地域のことを色々考慮したり、それと、明治時代に小学校を中心にして文化とか村が形成されていきましたので、教育だけではなくて地域の文化とか、あるいは、過疎化なども早まってしまうと思うので、色々慎重に検討して小学校の場合はいった方がいいのではないかと思います。

ちょっと話はずれてしまうかもしれませんが、小学校はそういうことなのですけれども、それよりも幼児教育のほうに先に影響が出てきてしまうと思います。もし、小鹿野町として幼児教育の方向性があるのでしたら、幼稚園と保育園の関係なのですけれども、お聞きしたいなと思います。何かあればお願いします。

教育長 幼稚園児がどんどん減少しておりまして、今の幼稚園は2学級がなくて年少も1学級と、今年も残念ながら今のところ18名ですので、21名か20名以上にならないと、いずれにしても2学級にはならないと。幼稚園が統合した折には、あくまでも3人・4人では、やはり集団生活も出来ないだろうということで統合させていただいたわけですが、これだけ少子化の波が出てきますと、幼稚園自体が大変厳しい状態がきて、これから十何人の幼稚園になると。今、住民課の課長とも相談して、保育所のあり方と民間の保育所もありますので、この辺を含めて、まずは1月に幼稚園園長または保育所の所長さん単位で子供園という研修があります。これは幼稚園と保育所の良さを、これは課長が詳しいので後で説明してもらいますが、そういうものを取り入れた子供園があると。私の個人的なことで、孫も12番の秩父幼稚園に行っているのですが、現実には、途中では幼稚園教育をしていただいて、それから3時以降になると保育所の預かり的な保育所の形をとったりして、1日預かっていただいていると。ただ、秩父などの例

を見ると、保育所については公立であり、幼稚園は秩父では私立しかない。小鹿野町の場合には、保育所は私立があり、幼稚園は公立であるという、こういう一つの大きな課題もあるわけですが、今後、幼保一元化というのはやむを得ないのかなと思います。幼稚園の施設をみても十分、幼稚園と保育所は両方子供がいますので、数的には小鹿野小学校の隣の場所でも設立していけるのかなと思います。しかし、保育所は人気が高いので、どう動いていいのかわからないところでもあります。

高橋課長

幼稚園と保育所ということで、町長さんがあそこを造る時から幼保一元化ということを言われていました。そういった意味で横に保育所を造ったということです。ただその当時は、法的なものがなかなかクリアできないということで、保育所の利用要件ということで現在まできているのですけれども、法律が今回改正されましたので、認定子供園という形で、一体運営ができるようになりました。

そういった意味で、先ほど教育長が言ったように保育所の所長や幼稚園園長等も研修に行くという形です。認定子供園になりますと、今の幼稚園児のような形態でいる幼児、それから保育所の形態でいる幼児が一体的にその認定子供園の中にいるということで、料金的には保育所に入るお子さんについては、諸要件があつたりして段階的に金額が決まりますけれども、幼稚園ということだと定額ということで決まります。そういった制度的には変わらないのですけれども、同じ園舎の中において生活するという形で、先ほどの教育長のお話のように、延長保育も出来るようになるということで、いろんな意味でメリットがある制度ではないかと考えております。

現状の出生数の推移をみていきますと、なかなか単独で幼稚園を運営していくことは、非常に厳しい状況になるだろうと。どうしても保育所の方は、働いているお父さんお母さんがいる中でお子さんを預かるという部分がありますので、そちらの方がどうしても需要が高いというようなことになります。民間の保育所もありますので、そちらの定数が、たしか40が定数だだと思いますので、そちらをある程度優先していきますと、残るのが一桁、平成34年の49人で見ていくと、仮に40人が民間の保育所に定数いっぱい入れたとすると残りが9人ということで、その9人を幼稚園と保育所というのなかなか現実的ではないだろうなということもあるので、そういったことを考慮すると、これから何年かかけて認定子供園への移行を模索する必要があるだろうと考えているところです。

来年度あたりからそういったことを研究し、準備を進めていかないと、実際にそういう状況になった時に間に合わないだろうと思っております。それから、幼稚園にしても保育所にしても町の職員がおりますので、そういった人事面のことも考えていかないといけないので、どうしても子供の数によって担任の先生の数だとか定数的な問題がありますので、そういったことも考えながら3年・4年というスパンでいかないと間に合わないのかなと考えておりますので、来年度あたりからある程度そのことを視野に入れながら、住民課とも協議をしながら進めていきたいなと思っていただいております。

町 長

ありがとうございました。

将来の展望について説明がございましたが、認定子供園ですけれども、当初、教育長もあまり乗る気ではなかったというのが何年前にあるのですけれども、他の所での成功例があまりなかったということで、ここにきて急に教育長もそういう考えに変わってきたということは私も感じています。ですから高橋課長が言うように、保育所を造った時に、あそこになぜ隣接して造ったかというのは、私は一体的に運営しようと思って造りました。ですので、私の考えるところは同じですから、ぜひそういうような方向を調査なり研究して、将来、何年後になるかわかりませんが、そのような方向に行っていただきたいと思えます。

やはり、50人切っている状態で施設がいくつもあっても、どうしようもない感じがしますから、そういう点等も考慮しながら教育委員会でも研究していただけると、大変ありがたいと思えますのでよろしくをお願いします。

他に教育委員の皆さんからも、今のことについてご意見等がございましたらお願いします。

「はいの声あり」

町 長

小池委員さんお願いします。

小池委員

この議題については、教育委員会等々で話すと暗い話になっていくのかなと思います。ただ、その中で、小鹿野町としても子供たちの医療費、また、給食費の無償化など、これは親にとってはありがたいことだと思っています。そういった中で、町として、また、議会としてもっと人口を増やそうという企業誘致のようなものはどうなのでしょう。それが出来てくれば人口も増えて、子供たちも増えてもっと明るい展望になっていくのかなという思いがありますけれども、その辺のところはどうなのかということと、あと、やはり幼稚園が統合、中学校が統合、なんで小学校は統合しないのかと言う保護者もいました。そういったことで、倉尾の小・中が統合した時もやはり、地域から学校を失くすのはだめだというふうな長老さんたちの思いを、PTA・親として「もう無理だと」いうことで小鹿野に来たという話も聞いております。色々な課題がある中で、少しでも企業誘致等々で明るい情報がないのか町長さんにお伺いしたいのですが。

町 長

企業誘致ですけれども、確かに働くところがなければということはよく言われています。しかし、小鹿野町の状況を見ていると、なかなか小鹿野の企業なり小鹿野で仕事をしていても、家を造るときは、町外という方が相当います。確かに職がなくてはいけませんけれども、意識の改革もしていかないとなかなか難しいと思えます。

この間、結婚した人は小鹿野にアパートを借りましたけれども、大体結婚すると秩父にアパートを借りるのです。大体そういう傾向が多いから、仕事も必要ですけれども仕事だけというのは。ある企業が、新しい工場を造ったのですけれども、ここで30人位若い人を募集して、申込者がいないと言っていました。なかなか募集しても応募がな

いというような状況です。20年前・30年前に富士電機が入ってきた、何が入ってきたという時には、やはり労働力が相当あったのですよね。だから入ってきたのだと思いますけれども、それがないということになると、企業がなかなか入ってこられないのだと思います。それと同時に、企業の人と話をするとう道路網の事もよく言われます。やはり、ちょっと不便だということと言われます。それは、我々の責任もあるのですが、色々な面が小鹿野町にとってマイナスの面が出ているのかなというふうに思っております。でも、それをやらないでいるわけにもいかないのので、我々としても去年から企業誘致条例等を、泉田の工業導入地域外でも同じような恩恵を与えるということで、条例等も改正等しているのですけれども、でも、それを利用している企業が、増改築でもいいのですが、たぶん3社くらいあると思います。ということは、それだけ製造業の人が、ここへ起点を置いてくれるという証にはなるのかなと思います。ですから、確かに新しい企業の誘致も必要なのですけれども、今の企業に居ていただくこともやっていかないといけないと思います。みどりが丘の団地が出来た時も、結構ここからも出ていきましたよね。ですから、ここに残ってもらえるという利点というものを我々なりに考えながらやっていき、そして、少しでも小鹿野に住んでももらいたいと思っております。もちろん、農業・林業等についても色々と考えていかないと、「これだけで」という特効薬はないのかなと感じはしています。

皆さん方にも色々な面でご指導賜りたいと思います。

以上でよろしいですか。

「はいの声あり」

町 長 それでは、（5）出生数から見る学校教育の将来展望については、以上にさせていただきます。

次に、その他についてですが、何かご意見等ございますか。教育委員会からは何かありますか。

「ありませんの声あり」

教育委員の皆さんはいかがですか。

ないようでございますので、予定をしておりました議題については、以上で終了させていただきます。皆様方のご協力をいただきまして無事に終了いたしましたことに感謝申し上げます。

以上で、本日の総合教育会議を閉会いたします。本日は、大変お疲れさまでした。

閉会 午前10時30分